

タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールII科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587034501	科目番号	05870345
授業科目名	●グローバル社会へのパスポートII(企業の国際展開とその課題)		
編集担当教員	源島 福己		
授業担当教員名(科目責任者)	源島 福己		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	源島 福己		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-33		
対象学生(クラス等)	2,3,4年生		
担当教員Eメールアドレス	genjima@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	言語教育センター2階		
担当教員TEL	095-819-2238		
担当教員オフィスアワー	水曜日16:10~17:40		
授業の概要及び位置づけ	<p>グローバル化に対応して生き残りを賭けた海外進出を進めている日系企業の多くは、これまで何をきっかけとしてどのような国際化を図ってきたのか、またその中でどのような人材育成を行ってきたのかを辿る。グローバル化に対応した変容を迫られるこのような企業の歴史や現在を通して、グローバルな企業として生き残るための戦略とは何かを考え、将来自分がそのような職場で働く際に求められる教養や能力、専門知識等を理解する。高度な英文の資料を使った課題も多いので、英語の理解にかなりの時間を使うことから、グループでの協同が必要となる。</p>		
授業到達目標	<p>企業の国際化がどのような環境の変化に応じて発生し進展してきたか、またそのような変化の激しい社会の中で生き残るために必要とされる人的資源は、どのように教育され確保されてきたのかを理解し、将来自分がそのようなグローバル環境や組織で働いてみたいと思った時に必要な力としての英語力、基礎学力、コミュニケーション力や人間関係構築力の向上に取り組む姿勢の変化をもたらす。</p>		
授業方法(学習指導法)	<p>パワーポイントを使った講義を中心に、DVD等を教材として使用する。また各テーマについて、講義の後でグループディスカッションを行い、その内容についてプレゼンテーションを実施する。また授業内容の理解を深めるために、各テーマに対して適宜簡単な理解度テストを行う。前もって指定されたテーマについて学生が授業中に発表し、内容について質疑応答することもある。</p>		
	回	内容	
	1	10月2日(木) 授業のオリエンテーション(授業内容、進め方、成績評価等)、自己紹介、グループ分け&アイスブレイク、自己紹介	
	2	10月9日(木) グローバル化とグローバル社会	
	3	10月16日(木) 日本企業の国際化	
	4	10月23日(木) 日本企業の国際化	

授業内容	5	10月30日（木）日本企業の人材教育	
	6	11月6日（木）日本企業の人材教育	
	7	11月13日（木）中小企業のグローバル化	
	8	11月20日（木）中小企業のグローバル化	
	9	11月27日（木）日本企業の特徴	
	10	12月4日（木）日本企業の特徴	
	11	12月11日（木）日本企業の現在	
	12	12月18日（木）企業文化	
	13	12月25日（木）CSRと企業倫理	
	14	1月8日（木）日本企業の現在と未来	
	15	1月15日（木）まとめ	
	16		
	キーワード	グローバル化、グローバル人材、人材育成	
	教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。 参考図書：①「日本企業の国際化」大石芳裕編著 ②「The Global Challenge, International Human Resource Management」Paul Evans et al	
	成績評価の方法・基準等	出席を前提としたグループワーク参加10% レポート 60% 小テスト20% プレゼンテーション10%	
	受講要件（履修条件）	グループワークに積極的に参加し、かなり高度な英語の文章に取り組む意欲を持っていること	
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールII科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587034901	科目番号	05870349
授業科目名	●グローバル社会へのパスポートII(世界人口の動向と国際開発)		
編集担当教員	松村 真樹		
授業担当教員名(科目責任者)	松村 真樹		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	松村 真樹		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-43		
対象学生(クラス等)	教育, 経済, 薬学, 水産		
担当教員Eメールアドレス	masaki@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	国際教育リエゾン機構教員室		
担当教員TEL	095-819-2253		
担当教員オフィスアワー	金曜16:30~17:30, 又はメールによるアポイントメント		
授業の概要及び位置づけ	日本や欧州のみならず、アジア諸国においても急速な少子高齢化が進む昨今であるが、その一方で、高い人口増加率が依然として続いている開発途上国もある。人口の動向を見ることによって、世界の多様性が見えてくる。同時に、過剰都市化、環境問題、児童労働、格差社会と貧困層、そして少子高齢化など、さまざまな課題も浮き彫りになる。この授業では、人口学的視点から国際社会の変化と多様性について理解を深めます。		
授業到達目標	1)死亡, 出生, 移動に関する人口データの意味を読み取ることができる。 2)人口転換について、特に先進国と途上国の人口転換の違いについて説明することができる。 3)人口動態に影響を与える要因について、社会・経済・文化的背景に関連付けて説明することができる。		
授業方法(学習指導法)	講義と演習によって、人口学の基礎概念や人口統計について学びながら、実際の国や地域の人口状況を把握する方法を習得する。		
授業内容	回	内容	
	1	人口を知ると何がわかるか?	
	2	さまざまな指標で見る世界人口の現状	
	3	人口構造の国際比較	
	4	人口転換論	
	5	出生率の計算方法と規定要因	
	6	出生状況の国際比較	
	7	死亡率低下の歴史的推移と地域格差	

	8	生命表の見方と平均寿命
	9	国内及び国際人口移動の理論と現状
	10	途上国における都市化と貧困
	11	人口高齢化
	12	人口増加と経済発展の関係
	13	人口増加と環境・資源
	14	各国の人口政策
	15	まとめ
	16	期末試験
キーワード	人口転換, 経済発展, 社会変容	
教科書・教材・参考書	<p>人口統計資料のコピーを配布します。 以下は入手が簡単な参考書です。 河野稠果 『人口学への招待—少子・高齢化はどこまで解明されたか』 (2007, 中公新書) 大泉啓一郎 『老いてゆくアジア—繁栄の構図が変わるとき』 (2007, 中公新書)</p>	
成績評価の方法・基準等	<p>授業中の演習及びクイズ (40%) 期末試験 (30%) カントリー・レポート (30%)</p>	
受講要件 (履修条件)	演習やレポートに積極的に取り組む受講生を求む。	
備考 (URL)		
学生へのメッセージ	外国のニュースを見たり, 英字雑誌・新聞を読むなど, 日ごろから海外事情に興味を持つようにしましょう。	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールII科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587035301	科目番号	05870353
授業科目名	●グローバル社会へのパスポートII(英語で学ぶオランダと西欧の文化)		
編集担当教員	山下 龍		
授業担当教員名(科目責任者)	山下 龍		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山下 龍		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-43		
対象学生(クラス等)	経済学部・教育学部・水産学部・薬剤学部		
担当教員Eメールアドレス	noboruy@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	言語教育研究センター		
担当教員TEL	095-819-2080		
担当教員オフィスアワー	講義の前後		
授業の概要及び位置づけ	日本とオランダとの交流が江戸初期から始まり、その交流が現在まで400年以上続いています。この講義ではオランダの文化と歴史を中心に、西欧の歴史的・文化的発展、または、長崎と深い関わりのある日蘭交流について、基本的な知識の習得と文化理解を目的とします。現在の国際社会において公用語である英語で講義を提供します。		
授業到達目標	英語でオランダと西欧の歴史と文化、または、日蘭交流についての基本的な知識を習得します。		
授業方法(学習指導法)	講義形式 この講義の為に作成した資料や視聴覚教材(Powerpoint)を利用して、世界史が得意ではない学生にも、より分かりやすく、オランダと西欧の文化と歴史を紹介します。		
	ローマ時代から現在までの歴史の出来事を説明しながら、オランダと西欧の発展を理解させます。オランダを知ることで、西欧の文化の発展も理解することができます。		
	回	内容	
	1	ローマ帝国時代 西欧でのキリスト教の布教	
	2	カール大帝とカロリング(フランケン)帝国 十字軍 オランダ語文学の誕生	
	3	ホーランド州の発展 中世末期の危機 北ヨーロッパのハンザ貿易	
	4	スペインとポルトガル、大航海時代 エラスムスとルネサンス カール5世と神聖ローマ帝国	

授業内容	5	マルティン・ルターとプロテスタントの宗教革命 オラニエ公ウィレム1世とオランダの独立	
	6	ネーデルランデン7州連邦共和国 15・16世紀の美術	
	7	オランダ東インド会社の創立 日蘭交流、平戸・出島	
	8	オランダの黄金時代 17世紀の美術	
	9	奴隷制 啓蒙思想時代とフランス革命 ナポレオン時代	
	10	オランダ王国 ベルギーの独立	
	11	産業革命 年少労働 女性権利 印象派とフィンセント・ファン・ゴッホ	
	12	第一次世界大戦 1930年代の世界恐慌 De Stijlの美術	
	13	第二次世界大戦 冷戦時代 20世紀のオランダ	
	14	現在のオランダ 宗教と伝統・祭り・自転車の王国・など	
	15	現在のオランダ 教育とスポーツ・政治・食べ物とお菓子・など 講義の総括	
	16	定期試験	
	キーワード	英語・歴史・国際理解・比較文化・日蘭交流・蘭学・文化	
	教科書・教材・参考書	教材・プリント教材 毎回配布します	
	成績評価の方法・基準等	成績評価は、定期試験50%、出席・授業態度40%、英語でのレポート（発表）10%	
	受講要件（履修条件）	全回出席が原則	
備考（URL）			
学生へのメッセージ	英語での講義を受ける抵抗もあると思いますが、講義の内容をしっかりと聞き、渡された教材を予習・復習すれば、英語能力はアップし、オランダや西欧の文化と歴史を広く、楽しく理解できるようになります。		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールII科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587035701	科目番号	05870357
授業科目名	●グローバル社会へのパスポートII(国際援助と公的部門の役割)		
編集担当教員	加藤 誠治		
授業担当教員名(科目責任者)	加藤 誠治		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	加藤 誠治		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-33		
対象学生(クラス等)	全学年		
担当教員Eメールアドレス	s-kato@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	国際連携研究戦略本部・国際健康開発研究科		
担当教員TEL	095-819-7895		
担当教員オフィスアワー	24時間		
授業の概要及び位置づけ	戦後賠償とリンクして始まった日本の国際援助(ODA)の歴史と現状、その仕組みを概観し、日本の戦後史の一断面を理解することを目的とする。加えて、国際社会の政治経済、開発援助の歴史を追うことで、現在の国際関係を理解する一助とすることも目的とする。		
授業到達目標	日本政府及び国際機関の公的部門が主体となる、インターナショナル及びグローバルな活動の現状を理解する。		
授業方法(学習指導法)	講義		
授業内容	日本の現代史の教育課程ではほとんど取り上げられていないが、現実の国際社会では常に重要なテーマとなっている開発援助、紛争、貧困などのテーマについて、その歴史的、理論的な展開を概観する。		
	回	内容	
	1	シラバス、学習評価等について説明し、イントロの講義を行う。	
	2	ODA予算、仕組み	
	3	戦後日本が受けた援助、戦後の復興と国際援助の黎明期(その1)	
	4	戦後日本が受けた援助、戦後の復興と国際援助の黎明期(その2)	
	5	日本人の海外移住と国際協力	
	6	援助の潮流1950～1960年代	
	7	中国援助(その1)	
	8	中国援助(その2)	
	9	国際協力に参加するとは～JOCVの活動から学ぶこと～ [特別講師：米村淳平]	
10	国際協力に参加するとは(その2) [特別講師：古泉志保]		

	11	冷戦終了後の世界～地域紛争と人間の安全保障、国連の役割～
	12	アフガニスタン援助
	13	債務救済、ミレニアム開発目標と貧困削減
	14	現在の国際援助～公的援助とNGOs、民間投資と貿易～
	15	これからの国際援助と世界の趨勢
	16	最終考課
キーワード	開発経済、経済成長、貧困、ODA、NGOs、ミレニアム開発目標	
教科書・教材・参考書	適宜参考書を紹介する。	
成績評価の方法・基準等	毎講義後の課題簡易レポート、出席率、最終回の筆記試験	
受講要件（履修条件）	学生であること。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ		



タイトル「**2014年度シラバス (教養教育科目)**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールII科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587036101	科目番号	05870361
授業科目名	●グローバル社会へのパスポートII (異文化接触とコミュニケーション)		
編集担当教員	永井 智香子		
授業担当教員名(科目責任者)	永井 智香子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	永井 智香子		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-43		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	nagai@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	095-819-2239		
担当教員TEL	095-819-2239		
担当教員オフィスアワー	金曜 4限目		
授業の概要及び位置づけ	普段何気なく使っている日本語を客観的にみる。 日本語教育に興味がある人に履修してもらいたい。		
授業到達目標	自分の母語である日本語が多少客観的に見られるようになる		
授業方法 (学習指導法)	授業は大きく分けて講義の部分とグループワークの部分に分けられる。		
授業内容	回	内容	
	1	オリエンテーション ウォーミングアップ	
	2	テキスト第1章 言語としての日本語	
	3	テキスト第2章 日本語の音声	
	4	テキスト第2章 日本語の音声	
	5	テキスト第3章 日本語の文法	
	6	テキスト第3章 日本語の文法	
	7	テキスト第4章 文字・表記	
	8	テキスト第4章 文字表記	
	9	テキスト第5章 語彙	
	10	テキスト第5章 語彙	
	11	テキスト第6章 社会言語学	
	12	テキスト第7章 心理学	
	13	テキスト第8章 第二言語習得	

	14	テキスト第8章 第二言語習得
	15	総まとめ 日本語教育について
	16	
キーワード	日本語を客観的に見る	
教科書・教材・参考書	『新・はじめての日本語教育1』高見澤孟監修 ask	
成績評価の方法・基準等	毎回の小テストとレポートの提出で評価するか あるいは、期末テストを実施するか初日の オリエンテーションで伝える	
受講要件（履修条件）	初日のオリエンテーションで詳しく伝える	
備考（URL）		
学生へのメッセージ		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールII科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587036501	科目番号	05870365
授業科目名	●グローバル社会へのパスポートII(途上国支援と国際保健)		
編集担当教員	松山 章子		
授業担当教員名(科目責任者)	松山 章子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	松山 章子		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-33		
対象学生(クラス等)	教育学部、経済学部、薬学部、水産学部		
担当教員Eメールアドレス	akikomata@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	国際健康開発研究科(坂本キャンパス)		
担当教員TEL	095-819-7893		
担当教員オフィスアワー	随時(メールで予約してください)		
授業の概要及び位置づけ	地球規模、特に低・中所得国の健康問題に関して、社会、経済、文化的背景を踏まえて現状を理解し、地球市民としてどのような貢献ができるかを多角的視点から考えるための基礎知識を身につけることを目指します。グローバル社会の中における共生をテーマにグローバル・ヘルスの問題を解決するため、国連、政府開発援助組織、NGO、民間企業など多様な組織が取り組んでいますが、学生個々人が現在そして将来、組織の一員として、あるいは一市民としてどのように協働していける可能性があるかを主体的に考える機会を提供します。		
授業到達目標	1) 国際社会における地球規模健康課題の現状を理解する。 2) 地球規模健康課題を克服するためのプロジェクトの立案を経験する。		
授業方法(学習指導法)	講義、DVD視聴等を中心としますが、基礎知識の習得のプロセスで、自ら批判的目を養いつつ、現実的課題克服のための対策を立案する能力を涵養するために、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーションなどを取り入れます。		
授業内容	回	内容	
	1	はじめに：授業のねらいと内容、課題等についての説明	
	2	国際開発とミレニアム開発目標一貧困とは何か	
	3	生存のための人間開発一飢餓と栄養不良	
	4	生存のための人間開発一子供と女性の健康	
	5	生存のための人間開発一世界の3大感染症 HIV/エイズ、結核、マラリア	
	6	生存のための人間開発一水と衛生	
	7	成長のための人間開発一教育	
	8	成長のための人間開発一ジェンダー	

	9	国際開発のパートナーシップ
	10	支援から協働へーマイクロファイナンス
	11	支援から協働へー企業の貢献と社会的責任
	12	支援から協働へーBOPと社会企業
	13	ディスカッションおよびグループ・ワーク
	14	グループ・ワーク発表
	15	グループワーク発表
	16	グループワーク発表
キーワード	地球規模健康課題、グローバルヘルス、支援、援助、共生、協働	
教科書・教材・参考書	必要な資料、教材を適宜配布	
成績評価の方法・基準等	アンケート、クイズなど グループワークの発表内容 個人レポート	
受講要件（履修条件）	モジュール「グローバル社会へのパスポート」を受講した学生	
備考（URL）		
学生へのメッセージ		

